

## 熱沙の国 ドバイから

### 1 ドバイってどんなところ？

#### (1) ドバイの場所

ドバイ(Dubai)はアラブ首長国連邦(UAE)を構成する7つの首長国の一つで、アブダビについて2番目に大きく、アラビア半島の南東部に位置しています。

ドバイ首長国の面積は、3,885平方kmで埼玉県とほぼ同じです。なお、UAEの面積は83,600平方kmで北海道とほぼ同じです。



< U A E >

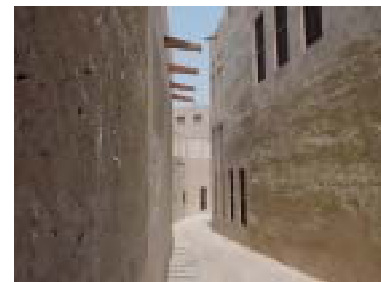
#### (2) 人口と街



< U A E 国旗 >

アラブ首長国連邦(United Arab Emirates)は1971年に建国され、35年を迎えます。ドバイの人口は2004年5月現在で111万人ですが、UAE人(UAE National)の人口は、全人口に対して約2割です。残りの8割は外国人です。多い順としては、インド人、パキスタン人、イラン人、アラブ諸国及び東南アジア、欧米人などです。ドバイに住んでいる日本人は1000人を超えています。

街は、近代的なビルが建ち並び高速道路が走っているエリア、昔ながらのアラブの町並みが続くエリア、観光スポットのビーチエリア、そ



< 昔ながらの通り >

してスーク（市場）などがかたまっているエリアがあります。どのエリアもきれいです。



< 高速道路 >



< スーク（市場） >

### （ 3 ） 気候

亜熱帯乾燥気候に属していて、夏季（4月～10月）と冬季（11月～3月）に分けられます。夏季は高温多湿で、気温は40℃以上で湿度は80%を超えます。場合によっては50℃を超える日もあります。冬季は比較的温暖です。湿度も適度で、平均気温は日中で20～30℃です。夜間は15℃くらいになることもあります。秋の北海道といったところです。

### （ 4 ） 時差

日本との時差はマイナス5時間。日本でお昼の12時は、ドバイでは同日の朝の7時です。

### （ 5 ） 通貨

ディルハム（Dhs または AED と表記します）がドバイの通貨で、1ディルハム約30円ぐらいです。

### （ 6 ） 言語

公用語はアラビア語ですが、英語が広く通用しています。

### （ 7 ） 宗教

イスラーム (Islam) が国教であり、スンニ派が主流となっています。イランからの移住者も多いためシーア派も勢力を持っています。

## ( 8 ) 産業

U A E は産油国ですが、ドバイは将来油資源が枯渇することを予想して、現在は、観光と中継貿易に力を入れています。アラビア湾を臨むジュメーラビーチには高級リゾートホテルが建ち並んでいます。世界一値段も高さも高いホテルを作ったり、人口埋め立て島パームアイランドも作られています。



< 高級ホテル >

ドバイには世界中の企業がオフィスや倉庫をかまえている、フリーゾーンが7つあります。フリーゾーンに企業が集まる理由は以下のことが考えられます。

- 海外の資本が100%認められています。
- 輸入・輸出税が100%免除されています。
- 収益を100%本国に持ち帰ることができます。
- 15年間法人税が免除されます。
- 申請をすれば更に15年間延長できます。
- 個人所得に税金がかかりません。
- スポンサーシップがありません。

日本企業も100社以上が集まっています。

## 2 アラブ社会を理解しましょう！

アラブ社会で生活するには、国の宗教であるイスラームを理解することが重要になります。

### ( 1 ) イスラームの基本は「五行」

イスラームの基本は五行です。五行とは 「信仰告白(シャハーダ)」 「礼拝(サラート)」 「断食(サウム)」 「巡礼(ハッジ)」 「喜捨(ザカート)」のことを言います。

ムスリムになるには、「アッラーの他に神はなく、ムハンマドは神の使徒であることをわたしは証言します」と唱えることです。

町の至るところにあるモスク（礼拝所）で1日5回の礼拝を決められた時刻に、決められた作法で、マッカ（メッカ）の方に向かって行うことです。モスクからは、毎回、ミナレと言われる塔からお祈りの



合図が放送されます。お祈りの時刻は太陰暦を使っていて、毎日時刻はちがいますが、だいたい一日の最初のお祈りは朝の5時半ごろ、最後は夜9時ごろです。金曜日の礼拝は一週間で一番大切な日となっています。

#### <ジュメイラモスク>

年に1度、イスラム暦（ヒジュラ暦）第9番目のラマダーン月に「断食（サウム）」が行われます。夜明けから日没まで「断食」を1ヶ月間行います。断食を行うだけが目的ではなく、断食をすることで、身を清め、宗教心を高め、周りの人に慈悲の施しをすることが目的となっています。このラマダーンは、イスラームでは非常に神聖な月です。町中は、ラマダーン時期になると、親戚などが集まり、まるで日本のお盆のように、にぎやかで活気づきます。ラマダン、月の満ち欠が基準になるので、毎年11日ずつ早くなります。

巡礼はハッジと言って、イスラーム暦の第12番目の月にイスラームの聖地であるサウジアラビアのカーバ聖殿を訪れることです。

喜捨とは、貧しい人や身寄りのない人など、困っている人を助けるために、自分の収入からお金を寄付することです。ラマダーン月には、毎日夕食を提供するお宅前に、日没近くなると、長蛇の列ができてたりします。

#### （2）服装

アラブの人の服装には伝統的な特徴があります。太陽の強い光や砂ほこりから身をまもるために、全身を覆うような作りになっています。ゆったりとした作りになっているのは、衣服の内側で空気が循環するので

汗の量が減り、皮膚の近くで涼しい空気の層ができるからです。男性は、ディッシュダーシャと言って、上から下まで続いた白い服を着ます。女性は、肌を見せてはいけないというイスラームの教えにしたがって、スカーフをかぶります。男性同様、上から下まで続いたドレスのような黒い服を着ます。これはアバーヤと言います。



<アバーヤ姿の女性たち>



#### 男性の服装

頭にスカーフは「ガトラ」  
黒い輪は「アガル」  
白い服は  
「ディッシュダーシャ」  
サンダルは  
「シブシブ」と言う。



#### 女性の服装

スカーフを「シーラ」  
黒い服を  
「アバーヤ」と言う。

### (3) あいさつ

アラブの人たちは、挨拶をととても大事にしています。長い挨拶の後、本題に入ります。

### (4) 家族

アラブの人たちは、家族を大切にします。昼食が1日で一番大切な食事で、家族揃って取ることが今でも続いています。

(5) イスラームにはしてはいけない、いくつか禁忌事項があります。イスラームの教えにしたがって、豚肉を食べてはいけません。また、酒ものんではいけません。握手は右手で行います。

### 3 ドバイ日本人学校での実践

「共に生きる力」と「コミュニケーション能力」の育成を目指して、ユニークな教育活動が日々実践されています。



<ドバイ日本人学校>

#### (1) 三大行事

学期ごとに行われる「音楽発表会」「熱沙祭(演劇祭)」「運動会」は3大行事と呼ばれていて、日頃の学習成果を発揮する大切な機会となっています。



<アラビア語教室>



<校章>

#### (2) ユニークな総合的な学習の時間「ミナレ」

総合的な学習の時間は「ミナレ」と言います。英会話、アラビア語、現地理解教育、現地校交流、日本文化学習、共生教育、修学旅行などがあります。

英会話は、小学1年生から、週に2時間行われています。

アラビア語の学習は、小学1年生から、週1時間行われています。

国際交流ディレクターからイスラームやアラブ社会についての講話を聞いたり、学校で働くローカルスタッフとの交流などを行っています。また、テーマ学習では、自分でアラブやイスラームなどの課題を設定して、調べ学習をして、発表する活動もあります。校内に「アラブ博物館」も設置されています。

学年に応じて、現地の小中学校との交流が盛んに行われています。相手の学校を訪問したり、日本人学校に招待したりしています。一緒に授業に参加したりスポーツをしたりします。現地の学校は男女が別々の校舎で学習しているので、交流の時は、男女別々になります。

日本文化も大切にしています。日本の文化や習慣を知ることは、自分自身を理解し、交流活動で相手を理解するためにも大切なことです。去年は「生け花」と「茶道」などを体験しました。

近くの養護学校と交流を深めています。いろいろな人がいることを理解し、どんな人とも、相手のことを考えて生活できることを目指しています。「環境」を考えるのも、共生教育の一つです。アルミ缶を集めた収益金をアフガニスタンの子供たちに送ったり、砂漠のゴミ拾いキャンペーンに参加しています。

修学旅行は1年おきに行っています。小学部5・6年生はUAE国内を、中学部全員が隣国オマーンに行きます。修学旅行がない年は、小学5年生から中学3年までの児童生徒が1泊2日の砂漠キャンプを体験します。



<オマーンのアオウミガメ>



<砂漠キャンプ>

### (3)「ミナレ」の時間から

日本人学校では、現地の学校との交流が活発に行われています。交流活動を通して、生徒は自分の目を見て、異文化を直接肌で感じる事が

できます。相手とコミュニケーションを取ったり、自分のことや日本のことを相手に伝えるためには、「言葉」が大きなカギになります。貴重な経験をさらに深めるために「言葉」の問題は欠かせません。

外国語を理解するうえで、最も大切なのは、母語になる日本語の学習です。国語学習の充実が大切となります。また、生徒の中には海外で生まれ育って十分な日本語環境がなかったり、保護者が日本語を母語としていない場合などがあり、そういう生徒の日本語の指導も重要な課題になっています。

交流を深めていくと、お互いの文化の違いを説明したり、一緒に楽しんだりしたくなります。イスラームの文化や習慣、宗教を理解することは交流をスムーズに進める上で重要になります。日本の文化を知ることによって相手の文化と比較し、お互いの良さを見つけることができます。

#### 4 まとめ

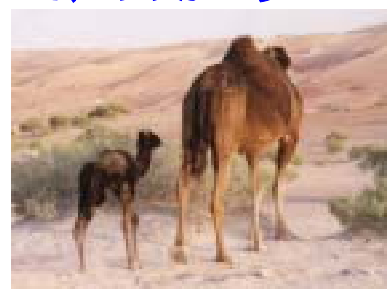
4年間のドバイ日本人学校では、公私にわたり様々な場面で周りの人に支えられていたという「おかげさま」の気持ちでいっぱいです。現地の気候や生活習慣になれず体力的にも精神的にも大変だった時期もありましたが、仲間やドバイにいる日本人の方々、そして児童生徒たちとその保護者の皆様、そして日本からの励ましに助けられました。感謝の念でいっぱいです。

ドバイは世界中のビジネスや観光客が集まる国際都市になりつつあります。その中で自分自身をしっかりと持ち、日本人としての誇りを持つことの大切さを感じました。

これからの未来を担う子どもたちに国際人として、「集団」と「個」のバランス感覚を養っていてもらいたいです。

このような貴重な機会を与えてくださりまして、ありがとうございます。

これからもドバイで得たものを還元していきたいと思っています。



<ラクダの親子>